

〔12番 野村勝憲 登壇〕

○12番（野村勝憲）

それでは通告に従い質問します。私は12月議会終了後、単独で市の観光パンフレットと、今話題になっています白川郷再発見のガイドブック、これ35ページぐらいありますけども、これを持って止利仏師が生まれ育った天生と古川祭のPRを兼ね、観光、薬草、祭り、データセンターなどをテーマに、それぞれの地域づくりを学ぶため、昨年10月、産業常任委員会6人で視察した奈良県の河合町、宇陀市も含めた奈良県の5自治体と斑鳩町にある高市総理の選挙事務所や京都府庁と隣接する文化庁、そして愛知県庁、民間会社及び県内の4自治体を視察訪問し、得た知見と市民の意見、要望を取り入れ、大きく3点質問します。

まず1点目、ゆかりの地との歴史観光推進について。2月、1泊2日で、河合町の止利仏師、飛驒の匠のゆかりの地で奈良県の河合町、明日香村、斑鳩町、それから橿原市の4自治体を中心に、大和と飛驒の歴史ロマン探求と広域連携での歴史観光推進提案を目的に視察訪問してきました。今回の視察で私の一般質問をYouTubeで見ていただいた自治体を知り、御多忙中お会いしていただいたことに感謝し、市民の皆さんにも御理解いただくため、ここで2日間の視察訪問を簡単に説明します。

今回「止利仏師ものがたり」、あと「奈良県ゆかりの地を訪ねて」の資料、これは教育委員会のほうにあったんですけども、それを持参してそれぞれに説明してきました。まず2月4日、午前9時50分に宇陀市役所で農林担当の部長と課長に面談し、途中、菓子メーカーの方が同席されました。そこで、愛知県の八丁味噌とコラボした薬草入りの菓子をふるさと納税返礼品の新商品で試食させていただきました。さらに私は宇陀市の薬草のまちづくりが進化すると確信したところです。それから、お二人から私の12月の一般質問を動画で見たと聞き、そのときに私は大手化粧品メーカーのことを話したと思いますけども、これを御紹介する約束をし、この議会が終わったら引き合わせようと思ってます。その後、大和八木へ、これは橿原市のあるところですけども、午前11時15分より橿原市役所で課長と課長補佐に面談しました。飛驒町、古川町名の由来ですね、それと日本始まりの地であります飛鳥・藤原世界遺産登録を目指しておられて、その取組をヒアリング。それから午後2時10分に止利仏師ものがたりの第10話「大きすぎた仏像」で登場する飛鳥寺のある明日香村で、議会事務局長と世界遺産戦略課の主事、産業課主査に面談して、村内にレンタサイクル営業所が4か所もあり、また、万葉のふるさと飛鳥路を自由気ままにサイクリングと民泊事業、そして大学生がガイドしている修学旅行、それと先ほど申しました橿原市との飛鳥・藤原世界遺産登録に向けた活動をヒアリングしてきました。

そして、橿原市で1泊して翌日の5日ですけども、昨年10月の産業常任委員会で視察したお礼も兼ね、午前8時30分から河合町役場別館で観光振興の課長と調査員、本館で議会事務局長に面談しました。私から、昨年10月、視察訪問時に少し話題にした止利仏師ものがたりのアニメ動画を、ふるさと納税を活用し実現したらどうでしょうということを提案してきました。それと同時に、3月議会で一般質問させていただくことと、さらなる交流と観光振興についてお願いをしてみました。河合町の12月議会だよりを頂いてきたんですけども、ここに、ある議員が友好都市、我々が行ったときのことですけども、飛驒市からの行政視察を一般質問され、また、裏表紙では

カラーで当日の視察内容を御紹介いただきました。

その後、近いところでありますけども、午前9時50分より日本の世界遺産登録第1号となった法隆寺があります。その西にある斑鳩町役場で、観光商工係長と職員に面談しました。止利仏師が作ったと伝えられる釈迦三尊像のある法隆寺が観光客の約6割です。現在、新観光戦略策定中で、目標の観光客は150万人とお聞きしました。修学旅行の取組などを学んで、その後、高市総理の選挙事務所が法隆寺の西側にあるんですけども、そこで地元秘書2名の方と会談しました。内容は、私が広告会社に勤務していたとき、1993年の衆議院議員選挙で初当選された高市早苗さんのポスターとかチラシですね、そういったものを作って広報部門で大変お世話になったことと、今回の目的であります止利仏師ゆかりの地4自治体と宇陀市訪問を報告させていただいたと。特に、高市総理の奈良2区であります河合町との友好都市と長林寺及び斑鳩町の法隆寺との止利仏師伝説について説明し、また御協力いただけないかということもお願いしてまいりました。また秘書の方から、宇陀市の話をしたときに20周年事業のことも話題になり、大変実りのある奈良県の視察を終え、京都へ向かいました。

午後1時30分から京都府庁に訪問し、観光室参事と地域政策室参事に面談しました。私が1月下旬にNHKラジオで聞いた番組ですけども、「自治体をまたぐ観光エリア」で紹介された京都北部7自治体を海の京都としてブランド化し、2016年観光庁がDMOに認定し稼ぐ観光として注目されています。その取組と、「もうひとつの京都」ということで観光周遊カーシェアリングについて学んできました。その後、隣接する文化庁を訪問し、古川祭のこともテーマにし、伝統行事担当チーフに面談して地域の祭りについて意見交換をしました。今回、縁のある奈良県の旧月ヶ瀬村、現在は奈良市になってますけども、訪問を考えましたが時間が足らず、次の機会にいたします。そこで6点問います。

まず1点目、止利仏師生誕の地伝承とPRについて。漫画家、鍛冶明香さん作品の「止利仏師ものがたり」を読んで大和の国を訪れるとまさに飛鳥のロマンを感じ、まさに匠文化をつくった止利仏師は飛驒の匠の祖でもあり、ふるさとの宝物です。したがって、河合町月ヶ瀬にある匠の石碑や天生の聖徳太子堂跡石碑など、史跡や伝説をこれからの子供たちにも、孫たちにも語り継がなければなりません。

まず1つ目、河合町には現在郷土史家と天生の監視員の方が止利仏師の研究をされていると聞いております。今後、若い後継者が求められます。その育成と現状を示してください。2つ目は、やはり子供たちにも、止利仏師ものがたりといういい本ができてるわけですから、第3話の「月ヶ瀬」はちょっと面白いと思ひまして、ネットで広く知らしめたらどうでしょうか。そして3つ目は、神岡町吉田の常蓮寺聖徳太子縁起も含め、止利仏師の足跡が分かる案内看板を設置し、まずゆかりの地を巡る雰囲気づくりをこの飛驒市内からしたらいかがですか。

2点目、止利仏師伝説の活用と地域づくりについて。今、温故知新を取り入れて、止利仏師伝説の史跡を最大限に活用し、新たな河合町の地域づくりが求められ、次世代にその環境を残し伝えなければならないと思います。もし具体的な方針や構想があればお聞かせください。そして令和8年度予算には、たしか200万円がふるさと納税で計上されていたようですけども、その事業内容と目的を示してください。

3点目、奈良県河合町とのさらなる交流について。平成14年に奈良県河合町と旧河合村が、止

利仏師伝説と同じ地名の縁で友好都市提携を結び交流が続いております。奈良県河合町の歴史旅行に2つの河合町と止利仏師のページに月ヶ瀬伝説や飛驒の匠など紹介され、今後も交流を深めていくと述べられておりました。2年前、河合振興事務所の企画で「止利仏師ゆかりの地を訪ねて」の1泊2日ツアーは大変好評だったということも聞いてますし、職員間の交流も深まったと聞いてます。そのツアー復活も含め、市民や関係者参加など、交流プランがあったら示してください。

4点目、テレビを通じ止利仏師の認知と理解を高めることについて。今回視察した中で止利仏師を知らない人や、白川村は知ってるが飛驒市は知らない人があり、法隆寺の釈迦三尊像や飛鳥大仏、長林寺の十一面観音を造った止利仏師の生誕伝説や月ヶ瀬伝説を、まず奈良県の人や岐阜県の人たちに知ってもらうことが必要だと思います。そこで、それぞれの地元の奈良テレビとぎふチャンネルに働きかけ、共同制作で1時間番組として2局で放送し認知度を高めたいかがでしようか。

5点目、止利仏師ものがたり再復刻本についてですけれども、現在、天生・月ヶ瀬伝説「止利仏師ものがたり」に登場する奈良ゆかりの地は、第3話「月ヶ瀬」と第10話「大きすぎた仏像」の飛鳥寺の2か所でだけなんです。この際、もう一度作家にお願いして、河合町の長林寺あるいは斑鳩町の法隆寺、そして飛驒の匠たちが住んでいた橿原市が登場するシーンを加え、再復刻本の制作を提案します。それでその費用は飛驒市のふるさと納税を活用したらいかがでしようか。

そして最後に、止利仏師ものがたりの映像化についてですけれども、再復刻本が完成しましたら、止利仏師ゆかりの地である奈良県河合町をはじめ明日香村、斑鳩町、橿原市、そして旧月ヶ瀬の奈良市と飛驒市の6自治体で新止利仏師ものがたりとして1時間30分の映像でドラマ化するなどして、映画館あるいはテレビ番組として上映したらいかがでしようか。その資金は何とか6自治体をお願いして、全国にふるさと納税で呼びかけ、ロケツーリズムの一環として募集することを提案します。以上です。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔河合振興事務所長 三井大輔 登壇〕

□河合振興事務所長（三井大輔）

それではゆかりの地との歴史観光推進について御質問いただきましたので、初めに御質問の1点目、止利仏師生誕の地とPRについてと、2点目、止利仏師伝説の活用と地域づくりについて一括してお答えいたします。

河合町の天生地区には、国宝である奈良県法隆寺の釈迦三尊像を制作したとされる止利仏師の生誕の地という伝説が残っており、飛驒の匠の祖として地域の誇りとして1,000年以上にわたり語り継がれてきました。しかし、精力的に活動してこられた方々の高齢化が進み伝説の継承が難しくなりつつあり、この地域の誇りを次世代につなぐため令和2年度に「天生の森と止利仏師研究委員会」を立ち上げ、令和4年から令和5年にかけて2回にわたる企画展を開催し、延べ1,500人余りの方に御来場いただき大きな反響を呼びました。

令和5年度には、人材育成を目的とした「飛驒河合止利仏師顕彰会」を設立し、漫画「止利仏師ものがたり」の復刻版の制作や、奈良県の止利仏師ゆかりの地の視察などに取り組んでおりま

す。また、河合町の止利仏師ゆかりの地を巡るガイドツアーを開催するなど、誰でも気軽に止利仏師伝説を体験できる機会を創出しています。令和6年度には、河合村時代に設置されたサインのリニューアルを目的とした止利仏師伝説サイン計画を策定しております。代表的なゆかりの地であります匠屋敷がある天生県立自然公園のサインと統一したデザインを採用し、地域の宝物である天生の森と一体となった河合町ならではの地域づくりに取り組んでおります。これまでに聖徳太子堂跡石碑と飛驒の匠碑への誘導サインの設置や、今ほど紹介しました天生の森にある匠屋敷の解説パネル改修などを実施しております。来年度の主な事業といたしまして、ゆかりの地の入口となる国道360号線沿いに大型看板の設置を予定しておりますところがございます。今後も河合町内に複数の誘導サインの設置を計画しておりますが、今のところ吉田常蓮寺など、河合町外での設置は予定をしております。

また、将来を担う子供たちへの止利仏師伝説を伝えていくことは大変重要であると考えておりまして、河合小学校の児童には、漫画「止利仏師ものがたり」の贈呈をしておりますし、河合保育園の園児には紙芝居を使った読み聞かせを継続して実施しております。

次に、3点目の奈良県河合町とのさらなる交流についてお答えいたします。奈良県河合町とは同じ地名が縁となり、平成14年に友好都市提携を結びましたが、飛驒市合併後は交流が途絶えておりました。令和4年度に自治体交流の復活を目的に職員が奈良県河合町を訪問いたしました。その際、奈良県河合町にある長林寺に止利仏師が造ったとされる仏像が所蔵されていることが分かりまして、交流を深めるきっかけとなったところがございます。令和6年度には、飛驒市民を対象に「奈良県止利仏師ゆかりの地を巡るツアー」を開催し、市民20名の方が奈良県河合町の長林寺を訪問しております。このツアーをモデル事業として実施をいたしましたところ、チケットが即日完売するなど大変好評でございましたけれども、担当職員の負担が大きいなどの課題もございまして、今年度の開催を見合わせたところがございます。今後はツアーの内容の見直しを含め、再開の検討を進めるとともに、双方のイベントへの参加でございますとか、飛驒市ファンクラブの開催など、さらなる自治体間の交流を促進してまいります。

続いて、4点目のテレビを通じた止利仏師の認知と理解を高めることについてお答えをいたします。止利仏師伝説の全国的な認知度は低いということは認識をしておりますが、飛驒市内においてもまだまだ認知度は十分とは言えません。また、ゆかりの地である河合町内におきましても、地域によって関心の差があるということが実情でございます。また、多くの来訪者を迎えるための環境整備もまだまだ十分ではございません。まずは身近な地域での認知度向上とサイン計画など環境整備を着実に進めていくとともに、現在公開しております止利仏師伝説の専用ホームページの一層の充実を図ってまいりたいと考えております。また、交流のある奈良県河合町での認知度向上に努めますとともに、商工観光部との連携によりまして、テレビメディアなどを活用した広域的な情報発信も進めてまいりたいと考えております。

一方、ロケツーリズムの誘致活動において、止利仏師伝説の存在がきっかけとなり飛驒市のロケが決定いたしました、映画「仏師」の撮影が昨年四季を通じて飛驒市各地で行われております。あわせまして、ロケ地の1つとして奈良県の法隆寺でも撮影が行われておると聞いております。制作者の方からは、この映画上映に合わせて止利仏師に関するPRをする動画の制作なども予定しており、映画のPRとともに地域の活性化にも貢献したいということも伺っております。

この映画につきましては来年4月頃の上映と聞いておりますけども、こうしたことも含めながら、奈良県との交流を深めるきっかけにしたいと思っておりますし、全国の方に止利仏師伝説を知っていただく機会となることを期待しておりますのでございます。

最後に、止利仏師ものがたりの再復刻本と映像化についてお答えをいたします。漫画「止利仏師ものがたり」は河合村時代に制作された原文をそのまま復刻したものでございまして、短期間で制作することができましたけども、新たな追記を伴う制作につきましては作者との調整や現地の取材等、多くの時間と費用がかかると想定されますので、当面は現在の復刻版の在庫もございまして、こちらの有効的な活用を進めながら在庫がまた少なくなった段階で内容の見直しについては検討してまいりたいと考えております。

また、映像化につきましては、現時点で具体的な検討を行っておりませんが、こうした復刻版の見直しとともに将来的な実現の可能性について、ふるさと納税の活用も含めながら検討してまいりたいと思っております。

いずれにしましても、議員御提案のとおり奈良県のゆかりの地に関するコンテンツというものはまだまだ十分でないと思っておりますし、増やすということは大変重要であると考えております。今後も引き続き関係自治体、関係部局との連携を進めながら、例えばパンフレットの作成ですとか、そういったコンテンツの充実に取り組んでまいりたいと思っております。

〔河合振興事務所 三井大輔 着席〕

○12番（野村勝憲）

なかなか前向きな御答弁をいただいております。私も実際あちらへ行ってみているところもあるんですけども、ここで1つ、先ほど5点目の質問でも少し述べますが、飛驒の匠たちが住んでいた橿原市飛驒町ですけども、橿原市役所から資料を頂いたんですね。それをちょっと読み上げますと、この町の南東に隣接する上飛驒町を合わせた一帯に、古代木工に優れた多数の飛驒の匠が岐阜県の飛驒高山から招集され、日本初の都城、先ほどちょっと述べましたが藤原京造営のため長く住んでいたと伝えられておりますと述べているんですね。

私も今回行って注目したんですけども、藤原と飛鳥は世界遺産登録を目指しているんですね。恐らくこの夏には登録がどうなるか決まるんじゃないかという情報を得ておりますけれども、これを機会に、高山市も名前が出てきますので、高山市とも広く飛驒地域全体で知ってもらわなければいけないということで、止利仏師の地を訪ねてのツアーをされる場合、高山市からも募集をかけるとかして広めていったらいかがかなと思うんですが、その辺はいかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□河合振興事務所長（三井大輔）

奈良県河合町のほかに飛驒町等もツアーに含めたらどうかということでございますけども、河合振興事務所といたしましても、令和5年でございますけども、この橿原市に参りまして、現地取材をしております。この本にもまたその様子も記載してございますけども、当時このバスツアーにもこの飛驒町を含めてという検討もいたしたところですけども、現地では飛驒町という看板があるんですけども、ほかに止利仏師に関するゆかりの地というものがないということもござい

まして、前回のツアーには組み込まなかったということでございます。ただ、このツアーの宿泊地が橿原市になっておりますので、行程的には十分ツアーに組み込むということは可能であるというふうに考えておりますし、止利仏師自体が飛驒の匠の祖であるということもございまして、まさに奈良県と飛驒の歴史の象徴的な部分もございまして、奈良と飛驒との交流の歴史というような部分もテーマとして入れながら、より多くの皆さんに参加いただくようなツアーになるんじゃないかと思っておりますので、また今後、橿原市にもこうしたツアーに御協力いただけるように、例えば橿原市に行ってその地域にも博物館等があると思っておりますので、そういったところで飛驒町との由来ですとか、そういったこともちょっとお話いただけるような、機会を設けていただけないかとかを含め、橿原市のほうにもこうしたことにも取り組んで一緒になって協力いただけるような働きかけも今後してまいりたいというふうに思います。

○12番（野村勝憲）

泊まることを言われましたけど、実際行ってみると河合町に宿泊施設はない、明日香村にもないというようなことで、やっぱりあの辺では橿原市内しかないんですね。そういうことで、ぜひ前向きにやっていただきたいと思っております。

三井河合振興事務所長も御存じだと思いますけども、奈良県河合町と飛驒市河合町は、位置、環境がよく似たところにあるんですね。それはなぜかといいますと、例えば奈良県河合町は、世界遺産の日本第1号の法隆寺がある斑鳩町と、古川と飛驒の名前のある橿原市の間にあるんですね。さらに先ほども言いましたけども、橿原市と明日香村は世界遺産を目指しているということですね。

一方、飛驒市の河合町は御存じのように五箇山もあって、隣には白川郷、これ世界遺産に随分前に登録されております。今度は逆に天生から下って古川のほうへ来ますと、ユネスコに登録された古川祭と高山祭があるわけですね。そういう意味では世界遺産とも関係してくるし、その分岐点は止利仏師が生まれた天生ですから、この位置関係、環境も何とか生かした観光振興ができるんじゃないかなと思うんですけども、なかなか難易度が高いかもしれない、簡単にいかないかもしれないんですけども、その辺はいかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□河合振興事務所長（三井大輔）

なかなか広域的な観光の部分でございまして、私のほうから十分な答弁ができるか分かりませんが、奈良県河合町との交流ということにつきましては、今年度、議会の産業常任委員会のほうでも訪問いただいておりますし、これまで以上にいろいろと飛驒市の取組についても御理解いただけるんじゃないかなというふうに思っておりますので、これまで以上に積極的に交流を深めてまいりたいなというふうに思っております。

また白川村につきましてなんですが、非常に河合町と距離も近いですし、特にその間にある天生県立自然公園、これを生かした観光振興ということは恐らく河合村時代からずっと取り組んできた、悲願であったんだろうと思っておりますけども、国道360号、天生峠というものの抜本的な改修というのが見込めない中で、なかなかうまくいってないような現状があるんだろうというふうに思っております。しかしながら、今飛驒市になっておりますので、やはり世界遺産も含めた広域的

な観光というものは商工観光部のほうで取り組んでおりますので、この止利仏師伝説も含め、そういうことにもいろいろと取り組んでいければというふうに思っております。

一方河合町としては、今年は通れませんが最近では白川村から国道360号を通じて外国人の方も見かけることも増えておりますので、あとは天生峠の駐車場周辺のWi-Fi環境の整備ですとか、例えば外国語に対応したようなパンフレット作成ですとか、そういうところについては振興事務所としても取り組みながら、そういった世界遺産も活用したような広域的な連携について対応していければなというふうに思っております。

○12番（野村勝憲）

白川村の話が出たんですけど、私も最近白川村の観光主幹と古川町でお会いして、この原稿を見せて、彼からいろいろパンフレットを頂いたりしているんです。いろいろな形で私なりに交流していきますし、それと高山市役所にも観光協会にも先ほどのパンフレットが置いてあるんですよ。河合町振興事務所にもそういったものを置いていただいて、特に天生が載っていますので、しっかりとコミュニケーション取りながら、何とか白川村、高山市と連携したいなと思うんですね。

それと、私今回一般質問の原稿を持っていろいろ回ってたんですけども、やはり止利仏師について、特に古川町なんですけどもなかなか認知されてないっていうのは分かったんですけど、ただその中で、ある若い人なんですけども、法隆寺の近くの人と私は大学時代に同級生だったという人もいらっしまったんですよ。そういう1つの縁が歩いてると出てくるんだなということを感じたんですね。河合町のほうはまだ行ってませんので、この議会が終わったら今の一般質問の原稿を持っていろいろ回りますので、ぜひいろいろやっていきたいと思っております。

そこで、今白川村の話が出ましたのでお聞きしますが、たしか天生峠のところ、国道360号は去年から通行できませんよね。今後はどのような見通しなんでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（横山裕和）

私のほうからお答えいたします。天生峠、国道360号につきましては、昨年の融雪の災害によりまして通行止めになっています。河合町側、白川村側双方に数か所の災害箇所がございまして、今年度は昨年の春以降、鋭意工事を進めていただいておりますけども、非常に被災箇所が多ございまして令和7年度秋までの開通が叶いませんでした。現在も工事途中でございまして、雪が解けましたならば引き続き工事に入ると聞いておりまして、古川土木事務所、高山土木事務所からのお話でございますと、なるべく早く開通はさせたいということで鋭意努力していただけるということでございますので、よろしくお願いたします。

○12番（野村勝憲）

もう1点、これは提案なんですけど、実は皆さん御存じだと思いますけども、隣の白川村は村営駐車場のせせらぎ公園の施設使用料収入が、来年度約5億3,000万円と発表されましたね。駐車料金だけ入ってくるということで、先ほど河合振興事務所長も非常に前向きな話でしたので、これは将来的な話なんですけども、にぎわいのある天生になったら、あれはたしか区の土地じゃないかと思うんですけども、あそこを有料化できないのかなということちょっと考えているん

ですが、これは5年先なのか、10年先なのか分かりませんが、その辺のところの見解をお示しいただければと思います。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□河合振興事務所長（三井大輔）

天生峠の駐車場でございますけども、おっしゃるとおり区所有の土地を使わせていただいて、振興事務所のほうでいろいろな方に使っていただけるように公衆トイレと駐車場は無料で提供しておるといふ状況でございます。今のところ有料化ということは検討しておりませんが、例えば今後施設の維持管理にどうしても必要な費用がかかるということがあれば、やはり財源確保ということに関しては必要であるというふうに思いますが、なかなか場所柄、人を置いて駐車場の有料化ということは難しいかなということを思いましたので、例えばトイレ利用に関しては募金箱で協力いただくようなこととかを含め、いろいろと検討していく必要があるのかなということを今ちょっと思っております。

将来的な話もしていただきましたけども、この天生の森ですとか止利伝説につきましては10年にわたって振興事務所もずっと取り組んでおることとございます。こうしたことによつて河合町に多くの方が訪れていただきまして、それがまた地域の皆さんの誇りにつながるようなものになるように引き続き取り組んでまいりたいと思っております。

○12番（野村勝憲）

私もしっかりと今まで培った人脈も含めて、またこれが終わったら今4か所出てきたところ、月ヶ瀬も入れて行ってきますので、また情報提供をしますので、お互い意見交換をして進めてまいりたいと思っております。

それでは大きく2点目ですけども、飛驒の匠文化館リニューアルについて。平成元年建設の飛驒の匠文化館は今年で37年目となり、既にリニューアル検討委員会を開催し、施設の価値と課題を共有し、実施案作成のため現在大手の展示・装飾会社に業務委託し、リニューアルの計画が策定されたと聞いております。そこで4点問います。

まず1点目、飛驒の匠文化館が今後どうあるべきかの姿は。約40年前と比べ、社会情勢や若い世代の認識などが変わってきました。それを前提に事業計画を分析し、基本構想及び基本計画が策定されたいと思っております。ここで市民に展示の改修や施設のリニューアル計画案を示してください。

2点目、止利伝説と飛驒の匠文化館コーナーの設置について。河合町の止利伝説は昔から天生で生まれ育ち、匠の祖とあがめられております。また、先ほど述べましたが奈良県橿原市の飛驒町は、日本初の都城、藤原京を造るために、木工に優れた飛驒の匠が多く飛驒地方から召集され、長く住んでいた出身地名を使った名残の1つです。止利伝説ゆかりの地と飛驒の匠を紹介したコーナーを匠文化館に設置してPRすべきときじゃないでしょうか。

3点目、子供たちが木と遊び学ぶコーナーの設置について。古くから飛驒人は森とともに生き、森を活用しながら生きてきました。飛驒の匠はその森と木を生かし、伝統文化に携わった職人たちです。その森と木と人を結び子供たちに伝えるため、館内に子供が木と遊び学ぶコーナーを設け、例えば祭り屋台をモチーフにした遊具などを置き、幼児も遊べるエリアにしたらいかがでしょうか。

4点目、リニューアルオープンと入館料について。最近観光は家族旅行が多く、未就学児を連れた観光客は古川町でも見かけます。現在、匠文化館の入館料は大人300円、小中学生100円、未就学児は入館不可となっておりますが、リニューアル後の入館料金とリニューアルオープン日を示してください。以上です。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔商工観光部長 畑上あづさ 登壇〕

□商工観光部長（畑上あづさ）

飛驒の匠文化館リニューアルについて御質問いただいております。

まず1点目の、飛驒の匠文化館が今後どうあるべきかの姿についてお答えいたします。本施設は、平成元年の開館以来、飛驒の匠が持つ卓越した技術と文化を継承・発信する拠点として重要な役割を果たしてまいりました。開館から35年以上が経過する中で、令和7年3月に公益財団法人日本ナショナルトラストから施設が無償譲渡されることとなったのを契機に、さらなる機能強化のためのリニューアルを実施することとし、これに先立ち、令和6年度に「飛驒の匠文化館基本構想・基本計画」を策定したところです。今後のスケジュールにつきましては、本計画に基づき令和7年度中に展示改修に係る実施設計を行い、その後、令和9年度に展示リニューアル工事を実施し、装い新たに開館する予定でございます。

今回のリニューアルにおける最大の柱は、施設単体で完結するのではなく、本施設を飛驒古川の町を巡るスタート地点と位置づけることにあります。コンセプトを「町まるごと匠博物館」とし、来館者がまず本施設を訪れ、飛驒古川の町並みの形成史や軒下の装飾である雲に象徴される匠の技の基礎を学んだ上で、実際に町中を巡り、本物の建築や職人の技を体感していただくなど周遊の促進を目指してまいります。また、本計画において重視しておりますのは、観光客の方々に飛驒古川の歴史や価値を伝えるだけでなく、市民の皆様が改めて自分たちの町の価値を再認識し、その保存・継承に主体的に関わっていただくことです。飛驒古川の美しい景観は、近隣との調和を重んじる相場意識という市民の精神によって今日まで守られてきました。こうしたことを踏まえ、リニューアル後は本施設を匠文化によるまちづくりの中核拠点としても積極的な活用に努めてまいります。

次に、2点目の止利伝師と飛驒の匠伝説コーナーの設置についてお答えします。飛驒の匠の祖とも仰がれる止利伝師は、国内で唯一その発祥伝説を有する本市の歴史文化を語る上で極めて重要な存在であり、今回のリニューアルにおいても不可欠な要素と考えております。そのため、現在策定を進めている実施設計では、既に匠文化館2階の一定スペースを割当て、止利伝師を紹介する展示を組み込む予定でございます。この展示コーナーでは、単なる知識の提供にとどまらず、飛驒の匠のルーツとしての物語性を重視し、止利伝師という郷土が誇る偉人をリニューアル後の新たな目玉の1つとして市民や観光客に広く周知してまいります。

次に、3点目の子供たちが木と遊び学ぶコーナーの設置についてお答えします。飛驒の匠文化館では、現在も千鳥格子や木組みを組んだり外したりしながら、その仕組みを体感できるコーナーがございます。リニューアル後もそういったコーナーは継続しながら、木と触れ合い、匠の技術を体感していただく場を提供してまいります。議員御提案のようなコーナーはスペース的

な問題もあり常設はできませんけれども、ソフト事業の中で木と触れ合う機会をつくることは積極的に検討していきたいと考えております。

飛騨市の豊かな森や木に触れ、そのぬくもりや特性を学ぶことは、子供の情操教育のみならず、林業への理解など極めて広範な分野に資するものと考えております。既に林業振興課においては、古川小学校や宮川小学校で市内産広葉樹を用いたアサガオのプランター制作に取り組むなど、木育の実践が進んでいるところで、古川小学校が行うふるさと学習の一環として、かんなくずアート講座を行ったり、市民カレッジなどでの端材を利用したウッドクラフト講座やかんなくずアート講座が行われるなど、子供たちが木と触れ合い遊べる機会は様々な場において増えてきておりますので、引き続きそれぞれの部署で機会の創出に取り組んでまいります。

最後に4点目のリニューアルオープンと入館料についてお答えいたします。開館時期につきましては、1点目の答弁で申し上げましたとおり令和9年度に改修工事を実施する予定ですので、リニューアルオープンは令和9年度末から令和10年度初めを見込んでおります。入館料金につきましては、近隣の飛騨古川まつり会館の大人料金が700円であることを1つの指標としつつ、施設規模や展示内容のバランスを考慮しながら検討することとしております。当施設は文化施設としての役割も併せ持っておりますことから、単なる収支の視点にとどまらず、市民や観光客をはじめ幅広い方々に繰り返し訪れていただけるよう、文化施設としての公共性と持続可能な運営を両立させた適正な料金を検討してまいります。

〔商工観光部長 畑上あづさ 着席〕

○12番（野村勝憲）

令和9年度ということで分かりました。そうしますと、全体のリニューアル費用はまだ予算化されていないのではないと思うんですけど、匠文化館のリニューアル費用は大体どのくらいになるのでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

現在実施設計は終盤にかかっておりますけれども、策定中でございますので、そこで明らかになるかとは思いますが、はっきりしたところでまたお伝えしたいと思います。

○12番（野村勝憲）

基本的には外観も構うってことですか。内装を構うのか、全体を構うのか、その辺はどうなんでしょうかね。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

外観については、入口辺りは多少構いますけれども基本的にはそのまま利用しまして、中の展示を主体としたリニューアルになります。

○12番（野村勝憲）

ちょっと気になるのは、飛騨古川まつり会館のほうから見た場合、外側のことなんですけども、向こう側に円光寺の白黒の板壁と、それから瀬戸川沿いには白壁土蔵があって、匠文化館だけ白

壁が上の部分しかないので、そうすると受けたイメージがまちなみ景観上半分くらい白壁にしたほうが調和が取れるし、バランスもよくなるし、見た目も町並み景観を気にしてつくっていらっしやるんだなということがありますので、その辺の検討は加えられないでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□商工観光部長（畑上あづさ）

外観についていろいろなお考えが様々な方におありになろうかと思えますけれども、費用も限られているところもありまして、まずは中身の展示に重きを置いたりリニューアルとさせていただきたいと思っております。ただ、左右の建物をつなぐところに今は渡り廊下があると思うんですけれども、あちらについては撤去をして、新たな入口を設ける形で考えております。

○12番（野村勝憲）

ぜひ市民も集う場所にしてもらって進めてもらいたいと思います。

それではちょっと時間もなくなってきたので3点目ですけども、増島児童公園リニューアルと周辺環境の整備について。昨年の10月11日、南部行政懇談会で3区の区長から市長への要望文書を添えて、増島児童公園、そして増島グラウンド、堀田森の管理について要請がありました。この件は一昨年の区長からもあり、南部行政懇談会で私だけではなく、議員たちもたびたび目にしております。

私は昨年の12月議会閉会日の午後7時から第3区の総会に呼ばれ、その場で議会と市政報告を行ってくださいということだったので、この問題が気になっていたものですから、この3月議会で一般質問させていただきますと発表しました。そしたら、帰りに多くの区民の方から、早く改修してほしいの声をいただきましたので、そこで2点問います。

増島児童公園のリニューアルについて。古川町時代の公園だけに、木のベンチには苔が生えているんですね。ほとんど使用されてないと。また子供たちが遊ぶ遊具も古く錆が目立ち、これでは1区から7区に住む子供たちは昨年リニューアルオープンした高山市の原山市民公園に行ってしまうでしょう。人口減少著しい飛騨市で、子育て世帯が増えているのは3区と2区です。現在もこのエリアには新築中の家があり、子育てのよい環境づくりが求められており、その観点からも幅広い年代が楽しめる場所として増島児童公園全体のリニューアルが急がれます。

2つ目、増島橋から堀田森までの環境整備について。荒城川沿いの桜並木道は福全寺の大イチョウから堀田森の大イチョウを結び、林昌寺前から貴船神社までのイチョウとドウダンツツジの並木道にも続き、そして乗鞍・御岳が一望できるなど、さわやかな風、青い空、澄んだ空気が体験できるウォーキングやサイクリングコースでもあります。実際いろいろ動いてらっしゃいます。しかし、古木となった桜の枝や桜木の根で凸凹した道も含め、十分な手入れが行き届かず景観や安全面にも課題があり、これらの環境整備も急がれると思います。いかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

〔基盤整備部長 横山裕和 登壇〕

□基盤整備部長（横山裕和）

増島児童公園リニューアルと周辺環境の整備について御質問いただきましたので、まず1点目

の増島児童公園リニューアルについてお答えいたします。市が管理する都市公園は市内に37か所あり、市ではこれまでに坂巻公園や杉崎公園などの整備を行ってまいりました。しかし少子化の進行や子供の遊び方の変化により、公園を利用する子供の数が減少していることや、地域住民の高齢化や人手不足による地域での維持管理が難しくなっていることなど様々な課題があることから、今後はそれぞれの地域や多様な世代のニーズに即した公園への見直しが必要であると考えております。また、公園の整備には国の補助事業などの財源の活用が欠かせませんので、有利な補助事業を活用するための計画づくりを含め、地域ごとの公園の状況や皆様の御意見をお聞きしながら、来年度より公園の再編や機能の集約に向けた計画の策定など、段階的に取組を進めてまいります。

このような考えの中で、増島児童公園については隣接するグラウンドの利用が減少している状況も踏まえ、公園とグラウンドを総合的に整備する必要があると考えています。また、河川敷内にあるため遊具の設置が難しい千代の松原公園との役割分担を図ることなど、地域の特色を生かした公園整備を検討し、全体的な計画の中で、順次取組を進めてまいります。

次に、2点目の増島橋から堀田森までの環境整備についてお答えします。まず、荒城川沿いの道路につきましては、一級河川荒城川の堤防管理道路として位置づけられており、管理者である古川土木事務所では定期的に堤防のパトロールを実施しています。近年では、令和2年に堤防の機能に支障があったことから、堤防舗装の補修が行われました。今後も支障が認められた場合は、補修を要望してまいります。桜並木につきましては、市ではこれまでも地域からの要望やパトロールを通じて通行や付近の住宅に支障がある場合には、必要に応じて枝打ちや伐採を行っています。なお、荒城川の桜につきましては、令和7年11月に地元である5区から古木の老朽化による倒木の危険性について相談がありました。その後、令和8年1月の5区総会において、荒城川の左岸側、増島橋から上流側の民家付近にある桜については、家屋への倒木の危険性を理由に長年咲き続けてきた桜を切るの寂しいが、安全を優先して伐採してほしいとの要望がありました。これを受けて、県の認定を受けたグリーンドクターに調査していただいたところ、老朽化が著しく、倒木の危険性がある木が多いとの見解でしたので、今後はグリーンドクターの意見を踏まえて地元区とも相談しながら計画的な伐採を検討してまいります。

また、市道貴船線のイチョウ並木道につきましては、3区及び19区からの要望を受け、令和6年度に林昌寺から新貴船橋までにつきましては伐採を行いました。令和7年度には新貴船橋から県道古川国府線につきまして強剪定を実施し、樹木の維持管理に努めております。歩道に関しましても通行に支障のある箇所は、これまでも随時補修してまいりましたが、今後も危険箇所を発見した場合には速やかに対応いたします。

市としましては、今後も地元地域や関係機関との連携を図りながら、地域住民の生活と安全を最優先としつつ、良好な道路空間の確保と豊かな自然環境と調和した環境整備に努めてまいります。

〔基盤整備部長 横山裕和 着席〕

○12番（野村勝憲）

御存じだと思いますけども、あの周辺ですね、公園から歩いて2分から7分の間のところなんですけど、住環境についてちょっと説明しておきますと、例えば2分のところの貴船町のとこ

ろ、ここには今9区画が分譲地として販売するという看板が出ています。それと4分くらいのところ、是重になるんですけども、ここも最近、田んぼを埋め立てていて、2区画が分譲されるということで、先ほども言いましたけども、3区は一番若い人たちが集まって来てるというような状況なんで、この辺は当然御存じだと思いますから、そういう環境にあるということ的前提に増島児童公園のことを進めてもらいたいと思いますが、その辺のことはいかがでしょうか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（横山裕和）

先ほど議員からもお話がありましたとおり、南部行政懇談会に出席させていただいた際にもそのようなお話も聞いております。私どももそういう状況を踏まえまして、先ほども申しましたとおり、従来大きな公園として整備してまいりました千代の松原公園につきましては遊具が設置できないというような状況もあることから、増島児童公園のほうに遊具を設置してほしいというような声も伺っておりますので、来年度以降ですね、そのような地域の御意見も参考にしながら、どういう公園にどういう機能を持たせていくのかということ、機能分担なども考えながら検討を進めていくつもりでございますのでよろしくお願いいたします。

○12番（野村勝憲）

もう1つですけども、実は是重の2番地かな、「ジャンボあらし」がありますね。道路を挟んで向こう側に10世帯ほど、ここ4～5年で家が新築されています。私はあそこをよく通るので分かるんですけども、5軒5軒が道路を挟んでありますよね。たしか8人ぐらい小さな子供がいるんですよ。あの子たちがですね、よく道路で遊んでるんですよ。一番危惧してるのは、そちらのほうの道路は、その人たちの自家用車が通るだけで、問題はジャンボあらしのところへ入る脇のところ、それから葬儀場がありますね。あの道路は車も通っています。私が気になったのは、そこへボールを投げ込んで取りに行く場合もあるわけですね。あそこから公園まで実際に歩いてみますと、6分くらいで行けるわけです。子供だったらもう少しかかりますけども、そういう環境があるということ念頭にぜひ進めてもらいたいですが、その点はいかがでしょう。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（横山裕和）

公園のお話とはまた別かと思いますが、道路空間に対する危険性ということでございましたならば、道路側で対応できる面があれば検討してまいりたいと思いますが、まずは道路に飛び出さないような対応につきまして、各御家庭のほうでも十分注意をしていただいた上で、また必要があれば御相談いただければと思います。

○12番（野村勝憲）

もう1点ですけども、私、最近ちょっと歩いていて若い奥さんから聞いたんですけども、子供を連れて杉崎の公園に行くんだという話をされました。しかし、実はあそこは駐車場が狭いんですね。杉崎公園へ行くといっぱいで、それで仕方なく原山の公園で遊ばせるということ聞いたんですね。したがって、例えば高山市では若者が集まる有名な店ができましたよね。そういうところを踏まえて、例えば公園の駐車場確保というのはしっかりやっていただきたいと思いま

すが、その辺はいかがですか。

◎議長（澤史朗）

答弁を求めます。

□基盤整備部長（横山裕和）

杉崎公園につきましてはリニューアル以降、多くの方に御利用いただいておりますけども、駐車場が満車になるというような状況が常にあるということではないと思います。イベントに合わせてサッカー競技が行われてるときとか、そういうときはあるんだろうと思っておりますけども、すぐに増設が必要とまでは考えておりませんが、状況を見てまいりたいと思います。

○12番（野村勝憲）

どっちにしても、それぞれの地域環境を捉えて進めていただきたいと思います。以上で終わります。

〔12番 野村勝憲 着席〕